

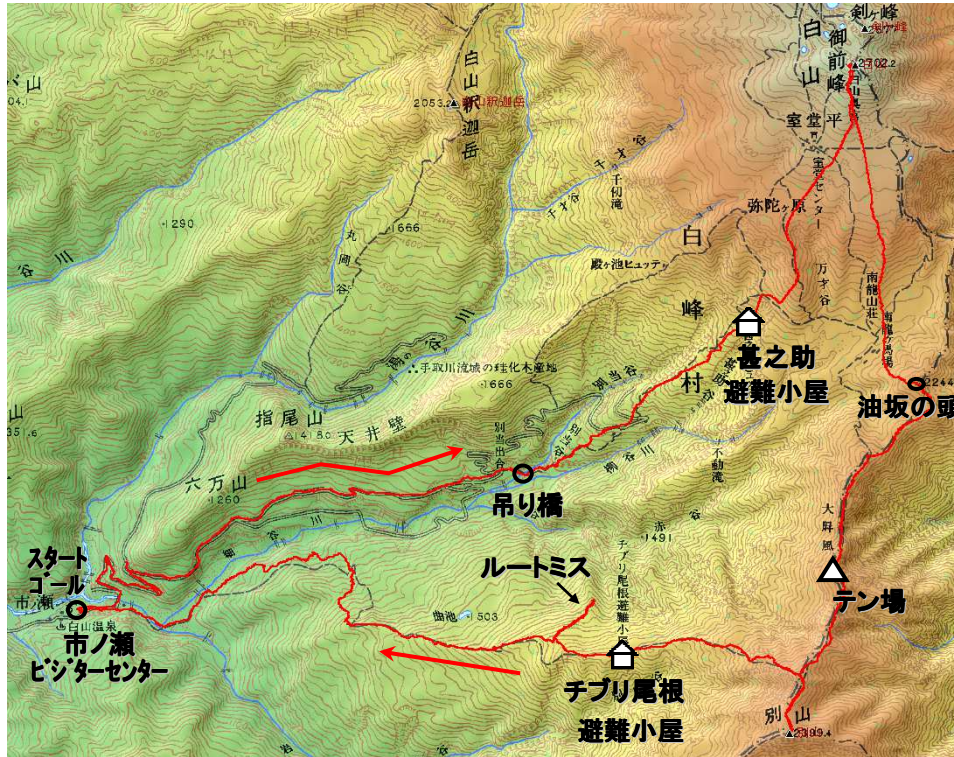
デンソー山岳部 2014年度 春山合宿報告書

■山城 白山、別山

■日程 平成26年4月26日～12月28日(予備日1日)

■メンバー 小田 修三(CL) 中尾 雄一(SL) 亀山 誠(監督) 吉田 明和(気象)
 方田 智貴(装備) 神戸 和広(食料) 天野 広(会計) 津田 廣一(記録)
 藤田 勝啓(渉外) 谷川 圭介(記録)

■ルート



第1日 : 4/26(土) 晴れ 歩行=4H25M

【行動記録】 起床(6:00)⇒風嵐ゲート(8:00 1h待ち)⇒市ノ瀬(9:40)
 市ノ瀬発(9:55)―林道途中1本(10:50)―別当出合(11:30)―中飯場近く1本(12:40)
 ―1本(13:40)―甚之助避難小屋(14:20)〔テン場〕―就寝(20:15)

昨夜、好天予想に気分よく車を走らせる。6時起床、九頭竜湖の道の駅を6:45に出発、あわよくば・・・の幸運を期待し、白峰風嵐ゲートに8時に到着するも、1時間のゲート開き待ち(1分早く開いた?)。釣り師のおじさん(爺さん)との雑談で時間をつぶし、いざ市ノ瀬へ。到着するや、そそくさと準備をして中尾君トップで9:55に出発。

長い林道歩きが始まった。久しぶりの重いザックに、すぐに身体が悲鳴を上げだした。緩い登りなのに、汗もかき、次第に口数も減っていく。1h程歩いて1本(林道踏破ならず)。やっところさ、林道が終わり、別当出合に着くと、恐怖の吊り橋が待ち受けていた。何と、踏み板なしで10cmぐらいの平行棒が向こう岸まで続いている。皆の顔が、瞬間引き攣った(“落ちたら、死ぬな?”)。意を決して亀さんが渡り出す。しばらくして、皆が続く。ストックをザックに収納し、両手で左右のロープを握って、一步、一步と前へ進む(南無、南無・・・)。気持ちは焦るも、中々、辿りつかない。10分近くかかって、ようやく恐怖からの脱出。



別当出合の吊り橋

本格的な登りになるが、標高が上がったせいか？雪道になったせいか？先ほどまでと違って、暑さを感じない。時々、吹く風も涼しく感じ、快適だ。快調に歩いて、中飯場のトイレの見える所で1本。行動食も口にし、リフレッシュして再び登り始める。トレースを確



夕食風景

かめつつ、雪道を1h程登り、多少、疲れを感じだしたところで1本。気を取り直す。しばらくして甚之助避難小屋が見えた。時間的に、室堂までは無理との小田CLの判断で、ここをテン場に決定。早速、テントを設営し、労い酒のご褒美を頂く。谷川さん自慢の食前酒（梅酒）と担ぎ上げたちゃんこ鍋を美味しく頂き、明日の登頂を夢見て眠りについた。（記：津田）



甚之助避難小屋のテン場

第2日 : 4/27（日） 晴れ 歩行=8H00M

【行動記録】 起床（3：00）—甚之助避難小屋[アイゼン装着]（5：00）—1本（6：20）—1本（6：55）—室堂付近（7：10）—1本（7：30）—御前峰（8：10～8：30）—1本（9：00）—南竜ヶ山荘の手前[アイゼン脱着]（9：25）—油坂の頭[1本]（10：10）—ワカン装着（10：30）—ワカン脱着（11：25）—ブッシュ地帯—1本（12：20）—大扉風テン場（13：30）—就寝（19：30）

時折り強く吹く風で何度か目が覚めたが、冬合宿に比べると、夏用シェラフ+シェラフカバーで暖かく眠れた。朝の雑炊をおいしく頂いたが、雑炊とお湯を温める時間に加え、雪が凍っており、テントの竹ペグ回収も一苦勞で、5時発が5時30分となってしまった。それでも風が無く、アイゼンを効かせ朝焼けを見ながらの登りは気持ちいいものだった。亀山さんと小田さんは冗談話をしながらだが、私は傾斜もきつい事もあり、黙々と登る。要所要所、傾斜のきつい斜面では、亀山さんのアイゼンを引っ掛けるなどという注意喚起があり、気を引き締めて行く。御前峰への最後の登りも結構な傾斜だった。



登り（室堂手前）



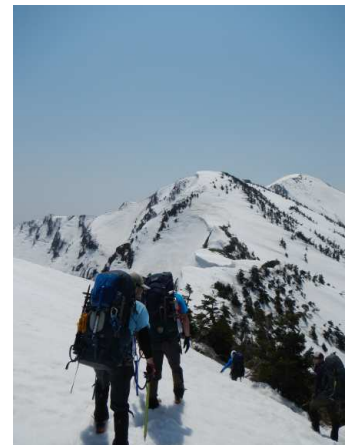
晴天の御前峰にて

頂上ではバックカントリーのスキーを手入れしている人が1人。こんなところからスキーで降りていくなんでスゴイと思いつつ、晴天の頂上で写真を撮り、素晴らしい景観を満喫。今日の無事を祈ったが、後に不運が訪れるとは、この時点では思いもしなかった。遠く別山（御舎利山か？）が見える下りを南竜山荘に向かって降りていく。

下りは登りより楽だが、足にくる。メンバーが攀りそうになって1本、途中、アイゼンに雪がダメになってきたので外し、いよいよ別山に向け最初の登りである。

ピークの油坂の頭からは、左に張り出す雪庇の遠く続いている尾根が見える。安全のため尾根の右側を進んで行く。柔らかい雪質でワカンを装着するが、1時間で大扉風のブッシュ地帯に突入。

ブッシュ地帯では木立の間を上下に進んでいくが、突然右足が陥没。思いっきり前につんのめり、ザックが頭を越えて、変な体勢になる。焦ってもがいていると藤田さんが助けてくれた。二度と失敗しないように慎重に行こうと思った直後にまた右足が嵌り、踏ん張りがきかず、中々足を抜けなかった。ザ



大扉風のブッシュ地帯手前

ックを下ろすが置く場所がなく、亀山さんに助けをもらう。嵌る前に足を曲げる・手を使うなどのアドバイスをもらったが、それは実践できずにブッシュ地帯を抜けた。私を含め、何人かが犠牲になって、かなり体力を消耗し、私は吉田さん、小田CLに荷物を持ってもらい、恥ずかしいやら、情けないやらで、申し訳なかったです。この時点で12時を過ぎ、1時間以上の遅れが生じていた。

さらにピークを越えた広いスペースのある稜線で、小田CLと亀山さんの判断により幕営することとなる。内心ホッとする。まだいくつかのピークを越えて、チブリ尾根避難小屋までは、緩い雪の状態ではかなりの時間がかかる。皆の体力、も考え、そういった判断が大切だと勉強になった。この日は歩行時間も長く、暑かったので、水も昨日の倍以上の2ℓ弱飲んだ。テント設営で斜面を整え、みんなで踏み固めた。おいしいお酒で歓談後、夕食はカレー。私と津田さんは甘口を選択し、皆さんは中辛でかなり辛かったらしいが、神戸さんの炊き加減ばっちりのご飯でおいしく頂いた。(記:谷川)



テン場より別山方面

第3日 : 4/28(月) 曇り 歩行=6H05M

【行動記録】 起床(3:00) 一屏風テン場[アイゼン装着](5:00) 一別山(5:50) 一チブリ尾根避難小屋[1本](7:00) 一尾根道間違いに気付く[1本](7:40) 一1本(9:00) 一1本[アイゼン脱着](10:15) 一市ノ瀬ビジターセンター(11:05) 一永井旅館[入浴] 一関SA[昼食] 一刈谷(17:00)

前日の行動遅れのため、計画よりも1時間早い起床となった。朝食のうどんをみんなですすり、テン場を撤収する。テン場は稜線沿いということもあり、風が寝起きの身体を呼び覚ます。撤収後、北アルプスや乗鞍岳、御嶽山の美しい山並みとゆっくりと顔を出し始めた鮮やかな朝日を横目で堪能しつつ、別山を目指す。昨晚の冷えのおかげで雪はしっかり締まっており、アイゼンが思ったように利き、昨日日中とは比べ物にならないほど歩きやすくなっていた。別山まで難なくたどり着き、山頂からの雄大な景色を楽しんだ。



別山頂上にて

別山からチブリ尾根に向かう。稜線からチブリ尾根に入るルートは昨日見た限りでは非常にいやらしく、急斜面であるため、注意が必要だと考えていたが、夏道が所々見えていたこと、雪が締まっていたこともあり、チブリ尾根避難小屋までは下りやすい道であった。後ろを振り返るとメンバーの顔からは余裕が感じられる、今までにはない感じだ。この道を昨日の日中下るとなると滑ったり、足を取られたりでずいぶん時間をロスしただろうと考えると、昨日チブリ尾根避難小屋まで下りることを断念した小田CLの判断はさすがと感ぜずにはいられなかった。



避難小屋から別山方面

その雰囲気は調子づき、避難小屋からもスムーズに進む。地図を読みながら、歩きやすく楽な道を進もうと考え、トレースからはずれ独自のルートを進んだ。これが間違いだった。何人かルートがあっているのか疑問に持っていたようだが、自身は地図上の位置と前方に見える尾根が正しいと思いこみ、突き進んでしまった。200mくらい進んだところで、小田CLから一度ルートを確認しようという提案された時点でルートミスが判明。現在位置と下方に見える別当出会の小屋との位置関係がおかしいことに気付く。SLとして非常に申し訳ないことをしてしまった。最終日であとは下るだけという状況であったのが、せめてもの救いであったが、こういうミスが命取りになる場合も十分にある。読図スキルの向上が今後の課題として浮き彫りとなった。

それからは、メンバー間で地図と照らし合わせながら現在地をしっかりと確認し、読図のポイントを藤田さんからも教えていただきながら、下山。

どんな山行でも、地図を見ながら自身の場所をメンバー間で確認し合いながら、自身はもちろん、部としての読図スキルも向上させていくことが必要と痛感。とても勉強となるルートであった。下山後は、温泉に浸かり、3日間の疲れを癒し帰路に着いた。（記：中尾）

<食料所見 神戸>

- メニュー 1 日目 夕 ちゃんこ鍋、(ラーメン2袋)
 2 日目 朝 雑炊 / 夕 (ラーメン3袋)、レトルトカレー、ご飯、味噌汁、海藻サラダ
 3 日目 朝 乾燥麺うどん

計画では、一人分米の量が雑炊用0.3合、カレー用0.4合だったが、計算間違いであり、正しくは各0.4/0.6合で用意して丁度であり、予備分がなかった。体力消耗具合によって不足するところであった。また鍋の鳥モモ肉の小間切れをしなかったのは大失敗であった。

<装備所見 方田>

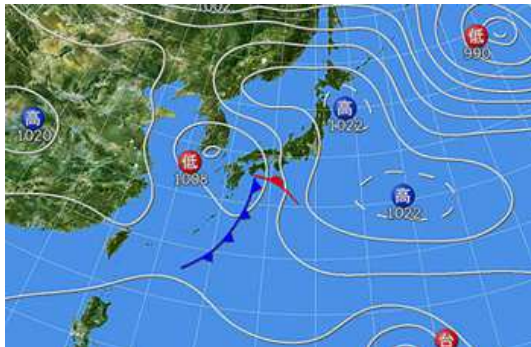
テント用のポールのゴムが、おそらく寿命で切れた。今回は、簡易処置にて、事なきを得た。ゴム部品など、経時劣化する装備部品など、定期的にメンテナンスをする計画が必要である。

<気象報告 吉田>

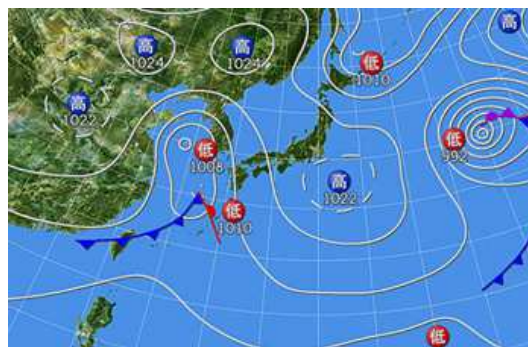
■ 4/27 9時



■ 4/29 9時



■ 4/28 9時



4/27 移動性高気圧がゆっくりと通過、晴れ。

4/28 移動性高気圧の中心は南岸に移るが、中部山岳は引き続き高気圧圏内で晴れ。

4/29 高気圧の中心は南岸から日本の南東海上に進む。午前中は晴れ、下山後の午後から雨。

※大矢さん、気象サポートありがとうございました。

<会計報告>

収入

会費 ¥4,600 × 10名 ¥46,000
 差し入れ (町田部長より) ¥5,000
 合計 ¥51,000

※町田部長 差し入れ有難うございます。

支出

高速・ガソリン代 ¥37,400
 食料 ¥13,600
 合計 ¥51,000

<リーダー所見 小田>

今回の山行は天候にも恵まれ非常に気持ちの良い山行ができた。また内容的にも充実しており、当初の目的であった部員のレベルアップも十分果たせたのではないかと思います。今回の合宿はA隊、B隊に分けずに10人の団体での行動となったが、この点に関して色々と勉強になったと思う。技術、体力等、メンバー間でレベルが様々であったため、他のメンバーを見ながら、各人自分に何が足りないのか考えさせられたのではないだろうか。自分も亀山さんの指摘を受けながら、この大団体で行動するには当初の計画が少し楽観的過ぎたと反省した。幸いにも天候に恵まれ、当初の予定通りに縦走することが出来たが、もし天候が崩れたり、視界がなくなってしまうと撤退せざるを得なかったであろう。縦走は、計画、行動の判断が非常に難しいものだと改めて感じた。しかしだからこそ、達成感、充実感、喜びがあり、何よりも楽しいのだと感じ入った。今回、各人が認識した課題に対して、各々精進しレベルアップした上で次の山行に臨むことが出来ればさらに充実した山行ができるのではないかと思います。是非とも、そのように繋げて行きたい。最後に、今回CLを務めさせていただいたが、自分はまだまだ色々な面で未熟であったため、同行メンバー、留守部員のメンバー、平地において協力していただいたメンバーの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。また皆で山にいきましょう。

<感想>

今回の合宿では初めてSLを経験させていただいたが、読図しながら進むこと、メンバーの体力を見ながらペースを作っていくことの難しさを痛感する山行であった。また、夏とは比べものにならないくらい技術と体力を要することを学ぶことができた。やはり合宿でしか学ぶことができない部分は多く、今回学んだことを日々の山行につなげていけるよう精進したい。頼りないSLであったが、ついてきてくれたメンバーに感謝したい。

ともあれ、最高の天候と絶景を与えてくれた自然に感謝し、また絶景に会いに山に挑んでいきたい！今回気づいた点の一部を以下に挙げておく。

・地図は赤線沿いだけでなく、広い範囲を見れるものも用意する。

今回、計画とは異なるルートを進むことになり、自身の持っている地図では賄えなくなってしまった。そういう状況もありうることを想定した準備が必要。また、広い範囲の地図があれば、読図にも役立つ。

・テント場撤収する際は、自分の荷物を片付ける前に、テントなど共同装備を撤収すること。

テントを担ぐ人を撤収が終わった後にパッキングをする。その分遅れが生じるため、共同装備はいち早く撤収することが必要。

・山に持っていくゴミを減らす努力をすること。

今回の合宿で一番驚いたことであるが、一日に出るごみの量が多い。山に行く前に無駄なもの（たとえばコーヒーの箱や食品トレイ）を取り除いておくことが必要と感じた。ひとつひとつはそんなに重いものではないが、軽量化に対する意識の低さが見られた。【中尾】

春山合宿、お疲れさまでした。参加者のチームワークと好天に恵まれる中、剣ヶ峰登頂・縦走・別山・千振尾根と満足のいく山行となりました。あえて言えば、更に精進され、体力・技術の向上をご期待いたします。みなさんと大自然に感謝！ありがとうございました。【亀山】

今回の合宿は、チームとしては体力・精神的にも技術的にも全く余裕のない山行であった。なんとか縦走を遂行できたのは小田CLと亀山さんの所々の判断が適切であったこと、気象条件に恵まれたからだと思う。結果的にメンバの技量を上回る山行となったことにより、各人が自分に何が足りないのか幾つか気づかされたと思う。例えば、荷物の軽量化、体力の強化、読図力の向上、判断力の向上など。私は、読図力と判断力が足りないと感じた山行であった。次回の合宿に向けて、各人が今回気づいたこと(=課題)を少しでも克服し、より安全な山行に繋がれたらと思う。【吉田】

初の雪山縦走に参加し、無雪期の山行に比較し、特に読図力と体力が必要かつ重要と感じた。今後、夏山においても、体力だけでなく地形を読む力を養って行きたい。また、稜線から見る、山々の景色は

絶景であり、無事やり遂げれたのはメンバーがいたからだと思う。

メンバーに感謝。雪山に感謝。【方田】

ほぼ2年ぶりの泊まり山行でしかも食糧係りを仰せつかり、準備で当然すべきことに頭が回らなかった。皆さんにはご迷惑を掛けました。米だけは何とか炊けるが、実生活の料理経験の無さが響きました。山行全体ではこの白山の地形はなだらかな斜面と崖の組み合わせで、室堂付近の地形でガスにまかれたら大変だなと感じた。また下りでの読図は疑問に思ったら先頭を止めて、すぐ確認すべきであった。また自分自身も偵察のつもりで隊列を離れて灌木帯で別行動してしまった。慎みたい。

もうひとつの反省は、相変わらず体力不足で、アイゼン歩行では極端に疲弊してしまった。

筋力アップのトレーニングを始めたい。勉強になる山行でした。【神戸】

天候と良いメンバーに恵まれ、楽しい山行となった。春合宿に向け自分なりにトレーニングをしてきた。つもりだったが、2日目に共同装備を他のメンバーに持ってもらおうという失態。さらなるトレーニングを行い、次回の山行につなげたい。（特に重量に関し）また、「読図をもっと勉強しなければ」との思いが深まった。CLの判断と仲間の協力に感謝！【天野】

天候に恵まれて、雪の白山・別山を登頂できたのは、又一个、いい思い出が追加できました。2日目に、雪を踏み抜いて、抜こうとした時に両足を攣ったり、又、焦って雪を固めてしまって足が抜けなくなってしまい脱出するのに体力を使いいきり、皆の足を引っ張ってしまいました（ごめんなさい）。春先の雪道の歩き方を、もっと上手くならなきゃと感じました（上手くなれるのか？分かりませんが・・・）。今回、意外と暖かく、冬用ヤッケも持参したのですが、使用せず。荷は軽くしたいし、判断の難しいところだと思います。無事に、安全登山に終始できたのが、一番よかった事です。【津田】

天候に恵まれ過ぎ？暑さと喉の渴きに苦戦して登った1日目。白山頂上の展望（笈ヶ岳、荒島岳など）と稜線でのテント泊の2日目。槍穂からの日の出とチブリ尾根の下山で少し迷った3日目。

苦労した分バッチリ楽しめました。感謝。【藤田】

初の雪山縦走で、良い勉強になりました。荷物の軽量化を優先せずに、何とかなるだろうと墓穴を掘ってしまった。ブッシュ地帯での踏み抜きからの脱出でヘトヘトになるような想定も必要だ。今後は好きなビール等も体力に見合った分量を用意することにします。そんな私を救ってくれた仲間感謝です。

終わってみれば、天気も良く充実した3日間でした。登りをもっとキビキビと歩けるように、課題の体力向上に励んでいきます。【谷川】